



7月図書館企画 第167回 芥川賞・直木賞 決定！

7月20日、東京・築地「新喜楽」において、選考会が開かれた。両賞は1935年に制定。芥川賞は新聞・雑誌に発表された純文学短編作品、無名・新進作家が対象。直木賞は新聞・雑誌・単行本として発表された短編および長編の大衆文芸作品の中から、無名・新進・中堅作家が対象となり、優れた作品に贈られる。

芥川賞受賞作『おいしいごはんが食べられますように』 高瀬隼子著

1988年愛媛県生まれ。立命館大学文学部卒業。

2019年「犬のかたちをしているもの」で第43回すばる文学賞を受賞し、デビュー。

芥川賞は2回目のノミネートだった。

内容は、心をざわつかせる、仕事+食べもの恋愛小説。職場でそこそこうまくやっている二谷と、皆が守りたい、仕事ができがんばり屋の押尾。



ままならない人間関係を、食べものを通して描く傑作。

直木賞受賞作『夜に星を放つ』 窪美澄著

1965年生まれ。フリーの編集ライターを経て、2009年「ミクマリ」で、第8回女による女のためのR-18文学賞大賞を受賞しデビュー。11年受賞作を収録した『ふがいない僕は空を見た』で第24回山本周五郎賞を受賞。直木賞は、3回目のノミネートだった。

内容は、コロナ禍のさなか、婚活アプリで出会った恋人との関係、人が人と別れることの哀しみを描く「真夜中のアボカド」。学校でいじめを受けている女子中学生と亡くなった母親の幽霊との奇妙な同居生活を描く「真珠星スピカ」、父の再婚相手との微妙な溝を埋められない小学生の寄る辺なさを描く「星の随に」など、人の心の揺らぎが輝きを放つ五編。



第167回芥川龍之介賞候補作品

小砂川チト	家庭用安心抗夫
鈴木 涼美	ギフトッド
年森 瑛	N/A
山下 紘加	あくてえ

第167回直木三十五賞候補作品

河崎 秋子	絞め殺しの樹
呉 勝浩	爆 弾
永井紗耶子	女人入眼
深緑 野分	スタッフロール



長期貸し出しのお知らせ

7月19日(火)～8月26日(金)まで、図書館から本を5冊借りることができます。夏季休業中に読む本をぜひ貸りてください。

夏季休業：7月28日(木)～8月25日(木)

冊 数：2冊 → 5冊

※夏季休業前に、今借りている本を一度返却してください。



芥川賞 受賞作品を読んでみよう！

『送り人』 高橋弘希著 第159回受賞
豊かな自然の中で、すくすくと成長していくはずだった。
少年たちは、暴力の果てに何を見たのか？

『ニムロッド』 上田岳弘著 第160回受賞
それでも君はまだ、人間でい続けることができるのか。あらゆるものが情報化する不穏な社会をどう生きるか。新時代の仮想通貨小説！
『1R1分34秒』 町屋良平著 第160回受賞
なんでおまえはボクシングやってんの？
青春小説の新鋭が放つ渾身の一撃。

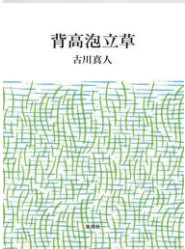
『むらさきのスカートの女』 今村夏子著 第161回受賞
近所に住む、むらさきのスカートの女と呼ばれる女性が気になって仕方ない、わたしは、彼女と、ともだちになるために、自分と同じ職場で彼女が働きだすよう誘導する。
徹底して一人称で語られている。

『背高泡立草』 古川真人著 第162回受賞
草は刈らねばならない。そこに埋もれているのは、納屋だけではないから。流れていった時間の痕跡に触れる、記憶と歴史が結びついた、ある一日の物語。

『首里の馬』 高山羽根子著 第163回受賞
沖縄の古びた郷土資料館に眠る数多の記録。世界が変貌し続ける今、しずかな祈りが切実に胸にせまる感動作。

『破局』 遠野遥著 第163回受賞
私を阻むものは、私自身にほかならない。
ふたりの女を行き来する、いびつなキャンパスライフ。
28歳の鬼才が放つ、新時代の虚無。

『推し、燃ゆ』 宇佐見りん著 第164回受賞
逃避でも依存でもない、推しは私の背骨だ。アイドル上野真幸を”解釈”することに心血を注ぐあかり。
ある日突然、推しが炎上した？



直木賞 受賞作品を読んでみよう！

『月の満ち欠け』 佐藤正午著 第157回受賞
三人の男と一人の少女の、三十余年におよぶ人生が交錯し、幾重にも織り込まれてゆく、数奇なる愛の軌跡。

『銀河鉄道の父』 門井慶喜著 第158回受賞
天才で、ダメ息子な宮沢賢治。その生涯を見守り続けた父が、心に秘めた思いとは？

『ファーストラブ』 島本理生著 第159回受賞
女子大生・聖山環菜が逮捕された。あらかじめ購入していた包丁で父親を刺殺した。なぜ彼女は父親を殺さなければならなかったのか？環菜の過去とは？

「家族」という名の迷宮を描く傑作長篇。
『宝島』 真藤順丈著 第160回受賞
希望を祈るな。立ち上がり、掴み取れ。愛は囁くな。大声で叫び、歌い上げろ。信じよう。仲間との絆を、美しい海を、熱を、人間の力を。

『渦 妹背山婦女庭訓 魂結び』 大島真寿美著 第161回受賞

人形浄瑠璃作者、近松半二の生涯を描いた比類なき名作。

『熱源』 川越宗一著 第162回受賞
樺太の厳しい風土やアイヌの風俗が鮮やかに描き出され、国家や民族、思想を超え、人と人が共に生きる姿が示される。

『少年と犬』 馳星周著 第163回受賞
傷つき、悩み、惑う人びとに寄り添っていたのは、一匹の犬だった。その犬はいつもなぜか南の方角に顔を向けていた。多聞は何を求め、どこに行こうとしているのか？犬を愛するすべての人に捧げる感涙作。

『心淋し川』 西條奈加著 第164回受賞
江戸の片隅、小さなどぶ川沿いに建ち並ぶ長屋。
住人たちは人生という川のどん詰まりでもがいていた。
懸命に生を紡ぐ人々の切なる願いが胸に沁みる感動連作！

